

チクゴスズメノヒエの除去活動

約100人で

外来生物は時として、爆発的に増え、様々な問題をおこします。

河北潟では、チクゴスズメノヒエやホテイアオイが、水路全体を覆ったり、ほかの水生植物の生育を阻害するなどの問題がおきています。増えないうちに取り除くことが、最も有効な対策です。そのためには、日常的に水辺を見回り、管理を行う、多くの目と手が必要です。

いま、そのための仕組みづくりに取り組んでいます。活動のネットワークをひろげるため、また管理の技術をつちかい、活動の経験をひろめるために、4つの地域で、チクゴスズメノヒエの試行的な除去活動をおこないました。

全4日間、のべ98人（実人数80人）で作業し、**約17トン**のチクゴスズメノヒエが水辺から除去されました。

《除去活動した4地域》

内灘町・西部承水路に流入する水路

津幡町・潟端（北）排水機場につながる水路、アサザビオトープ

干拓地・中央幹線排水路（北部）

金沢市・こなん水辺公園、木越地区の水路



水面に浮かぶ大群落の引き上げ



水路の中に入って手で抜く



マット状の群落をはぎとる



イカリを使って引き寄せる



深い水路で長柄道具が役立つ



レーキで引き上げ

堆肥化のとりくみ

除去したチクゴスズメノヒエを資源として、有効活用するための試みもおこなっています。河北潟に近い砂丘地の農地で堆肥にするとともに、外来種の種が発芽しないか、作物の肥料として有効かなどを調べています。



活動団体：河北潟地区外来植物対応方策検討会

※ 住民団体、NPO、農家団体、大学、国、県、2市2町の関係機関の多様な主体により構成されています。

（連絡先：北陸農政局農村計画部資源課
076-263-2161(代)）

パンフレット制作：NPO法人河北潟湖沼研究所
076-261-6951

E-mail kahoku_lake@hotmail.com
http://kahokugata.sakura.ne.jp

河北潟の水辺保全



河北潟の水辺を守ること、それは潟縁のくらしを受け継ぎ、豊かな地域を守ることです。

河北潟の豊かな水辺をとりもどすために、水辺でのふれあいを深め、さらに一歩すすんで水辺を保全する活動へ、多くの人に参加していただくことを願って、このパンフレットをつくりました。

「河北潟」や「農地の水辺」は将来に残すべき大切な財産です。

なぜ？

1. 水郷の面影
人と土地とのつながりがますます大切になっています。
水郷のおもかげは祖先から受け継いできたふるさとの風景です。
2. 野生生物のすみか
水辺にはむかしからの生物が残っています。私たちの時代に
絶やすことがないよう、次の世代につなげたいものです。
3. 農業の生命線
河北潟地域で最も大きな面積を占める産業は農業です。水の
つながりは農業にとっての血管、生命線です。



河北潟の水辺が様々な問題に直面しています。

なぜ？

1. 環境の悪化
水質が悪化したり、水辺にゴミが増えています。
生物のすめない水辺も増えています。
2. 生物相の変化
これまで河北潟でみられた水草や水生動物が姿を消したり、
少なくなっています。一方で、悪化した水質や人工化した水
辺に侵入しやすい外来種が極端に増えています。
3. 水辺とのかかわりの衰退
水辺に対しての人々の関心が弱くなっています。水辺のかか
わりが少なくなっています。水辺の管理が一部の人だけにま
かされるようになり、管理してきた人たちに高齢化の問題が
おこっています。

最近顕著になっている問題

外来種の極端な増加

河北潟地域で近年、問題
となっている外来植物

・チクゴスズメノヒエやホテイア
オイ。水域で急激に群落を拡大
する。

2002年、干拓地の
西部承水路で大発生
したホテイアオイ→



河北潟の水辺を守るために、多くの参加が必要です。

なぜ？

1. 管理の合理化だけでは解決しない
現在、問題となっている外来種は、水辺を人工的に整備して、
管理を合理化したところではびこっています。
2. 行政だけの対策には限界がある
外来種は最初はわずかでも、急激に増加します。問題が大き
くなったときに、行政等が動き、大規模な除去作業を行って
きました。同じやり方では、問題が繰り返おこります。
3. 人の手が加わってこそ良い水辺が保たれる
河北潟の水辺は、地域の人たちが自然と折り合いをつけなが
ら、良い水辺の環境と景観を保ってきたところです。そのし
くみは時代が変わっても変わりません。

チクゴスズメノヒエの問題



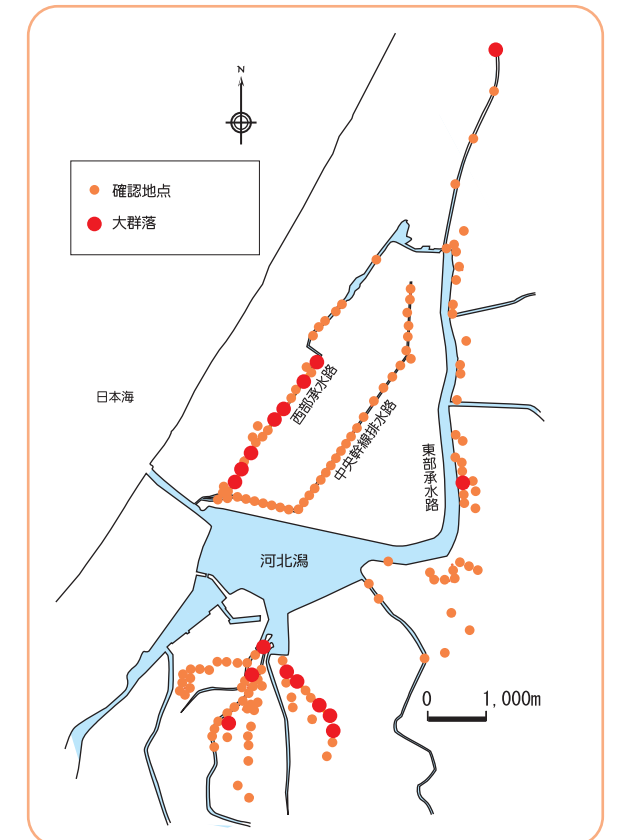
水路の通水阻害、ポンプ場の目詰まり



田んぼへの侵入



希少な在来植物などの生育を阻害



チクゴスズメノヒエの分布図（2008）

～チクゴスズメノヒエの生活史～

越冬：冬季に地上部の茎葉の大半が枯れるが、枯死せずに越冬する部分もある。

萌芽：4月上旬頃から。

増殖：萌芽後はつぎつぎに出葉し、直立茎から匍匐茎となり、水平方向へ伸長する。また、節から発根し、分枝する。

花期：6月頃～10月頃。

冬枯：11月中旬頃から葉先が黄色くなり、12月中旬頃には茎葉の大半が枯死する。

チクゴスズメノヒエ（イネ科スズメノヒエ属）

チクゴスズメノヒエ（筑後雀の稗）は、1982年に福岡県の筑後川下流で見つかったことによる。北アメリカ南部原産の湿地や水路に群生する多年草。茎は地上をはって、節から発根し、枝を分けて直立する。開放水面に侵入して大きな群落をつくる。



特徴：

- ・横にはう。
- ・茎や葉鞘（葉のつけ根が茎に巻いた部分）に白い毛がやや密に生える。

<チクゴスズメノヒエの除去の方法と注意点>

作業に適した道具：ゴム手袋、レーキ、じょれん、ひも付きイカリなど

◎ 抜き取り、引き上げ

× 刈り取り（すぐ伸長するので、できるだけ根ごと取るのが良い。）

除去の適期：開花前の、まだその年の群落が広がっていない春から初夏が最も良いが、多年草で冬でも生き残るので、農閑期など取り組みやすい時期に実施可能。



↑ 群生する前に除去するのが一番良い。

処理：コンクリート上や空き地に、除去した草の置き場所をつくり、そこで完全に乾燥させる。

※ 抜き取ったチクゴスズメノヒエを放置すると、そこで再生してまた問題となります。除去した後は、完全に乾かして、枯死させる必要があります。